

第2回意見交換会の検討素材

「ウェルネス」、「健康」をテーマとしたまちのあり方

1. 土地利用のコンセプト 健康生活拠点・深沢について

①市のイメージ

【市のイメージ】	【前提条件（例）】
～人・都市・社会にとって非常に好ましい 総合的な健康社会をめざす～ - 市民をはじめ、そこで暮らし、働き、学び、訪れる人たちが健康で快適な生活をおくるための拠点 - 様々な機能の集積・連携により優れた環境の創造 - 豊かなライフスタイルの提案、新しい鎌倉ブランドの発信 - 総合的な健康社会を先取りしたまちの実現	- まちづくりのテーマ「ウェルネス」は変更しない。 - 深沢地域整備事業における「ウェルネス」の具体的な展開について検討したい。

②市民等のイメージ

【第1回意見交換会で出された意見】	【洲崎陣出の杜の会】
東（旧鎌倉）は「文化」で、西（深沢）は新しい技術を入れ、「文明」というまちづくりが良い。それゆえ、「ウェルネス」というテーマは、経済的な発展にもつながるので、良いテーマと考える。	- 現行計画のテーマ『ウェルネス』はあいまいな題目である。（陳情） - まちの将来像『健康生活拠点・深沢』に具体像がない。（陳情）

③例示

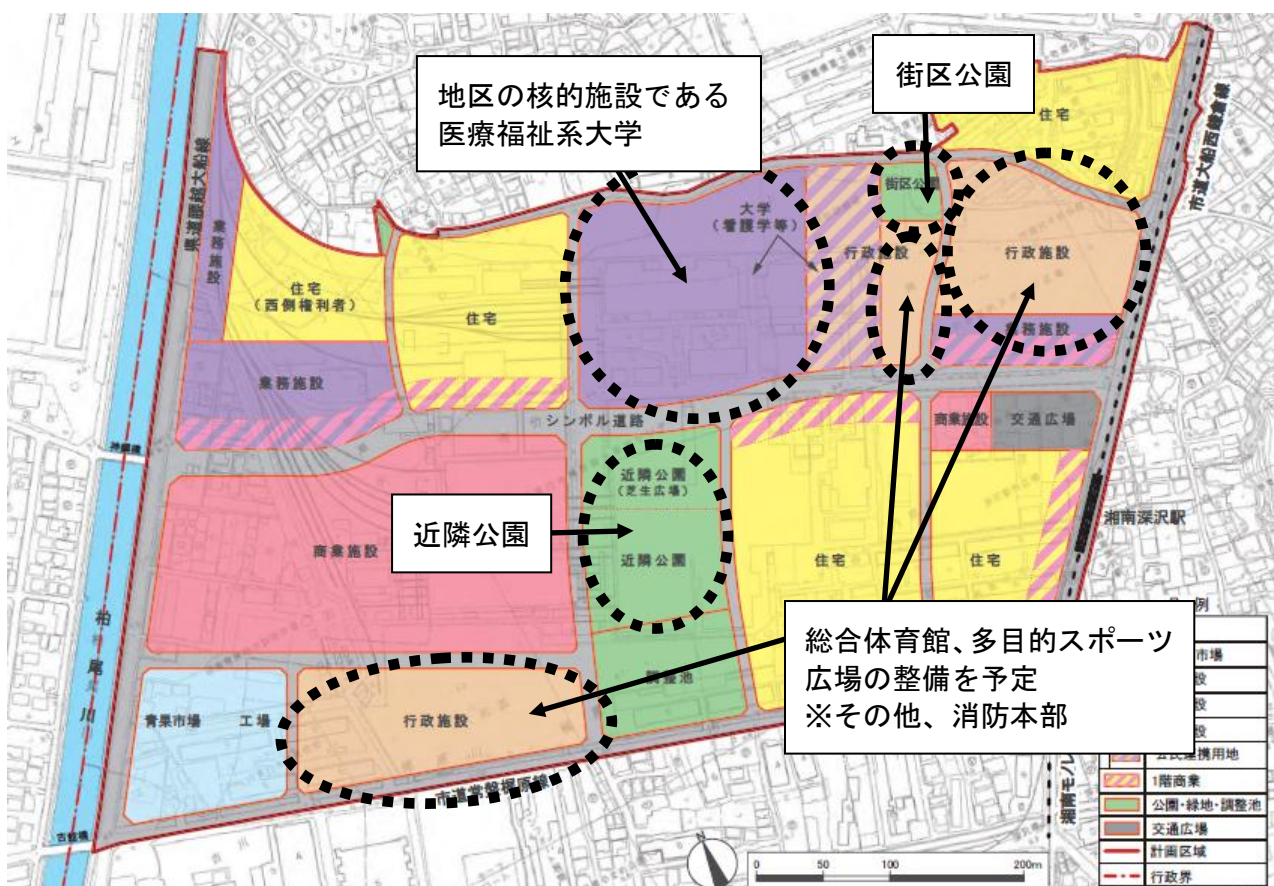
深沢地域整備事業における「ウェルネス」の具体的な展開（例）

展開例① 市民等の長寿、健康増進への貢献 - 市民をはじめ、そこで暮らし、働き、学び、訪れる人たちが健康で快適な生活をおくるための拠点 ＜施設イメージ＞ - スポーツ施設 - 医療施設 - 高齢者福祉施設 - リラックス施設（温浴施設）等 ＜期待される効果＞ - 市民の健康寿命の増進 - 市の医療費負担の軽減 等	展開例② 文化・産業等の活性化への貢献 - 今後成長が見込まれるウェルネス産業の誘致により、文化・産業等の活性化を図る拠点 ＜文化・産業イメージ＞ - 鎌倉野菜等を活用した、鎌倉の食文化の創造、ロハス - 健康食品、サプリメント - 健康・運動器具 等 ＜期待される効果＞ - 新たな鎌倉ブランドの創出 - 雇用の創出 - 税収の増加 等	展開例③ 若年層人口増加への貢献 - 大学等の誘致により、若者が生活するキャンパス拠点 ＜大学等のイメージ＞ - 看護系大学 - 専門学校 等 ＜期待される効果＞ - 若年層人口の増加 - 地域イメージの向上 等
---	---	--

2. 具体の施設のイメージやまちづくりのイメージについて

①市のイメージ

【市のイメージ】	【前提条件（例）】
●ウェルネスを象徴する核施設 - 健康生活拠点の核となる医療福祉系大学の導入。 - 業務街区に、スポーツ医療、リハビリ施設等の多様な機能を導入し、医療福祉系大学と連携を図る中で、健康づくりをサポートする総合的・複合的なサービス、教育機能を実現。 →大学等へのヒアリングにより、看護大学のニーズが下がっていることが分かり、改めて大学街区、業務街区に導入する機能の再検討が必要	医療福祉系大学の代替案があれば、検討したい。
●健康生活を支える公園・広場・スポーツ施設 ＜行政施設用地＞ ①総合体育館：施設面積（延床）約 8,000 m²、屋内プールの併設 ②多目的スポーツ広場：敷地面積 約 12,000 m²、既存施設と同様に他種目用途 ＜公園＞ ①近隣公園：敷地規模 約 10,000 m²～14,000 m² ②街区公園：敷地規模 約 2,000 m²	公園は、区画整理事業において必要面積が定められる、位置も容易には変えない。
●ゆたかな歩行空間の形成 シンボル道路、ふれあいのみち、みどりのこみち等、歩行空間を充実	シンボル道路の幅員等は変えない。



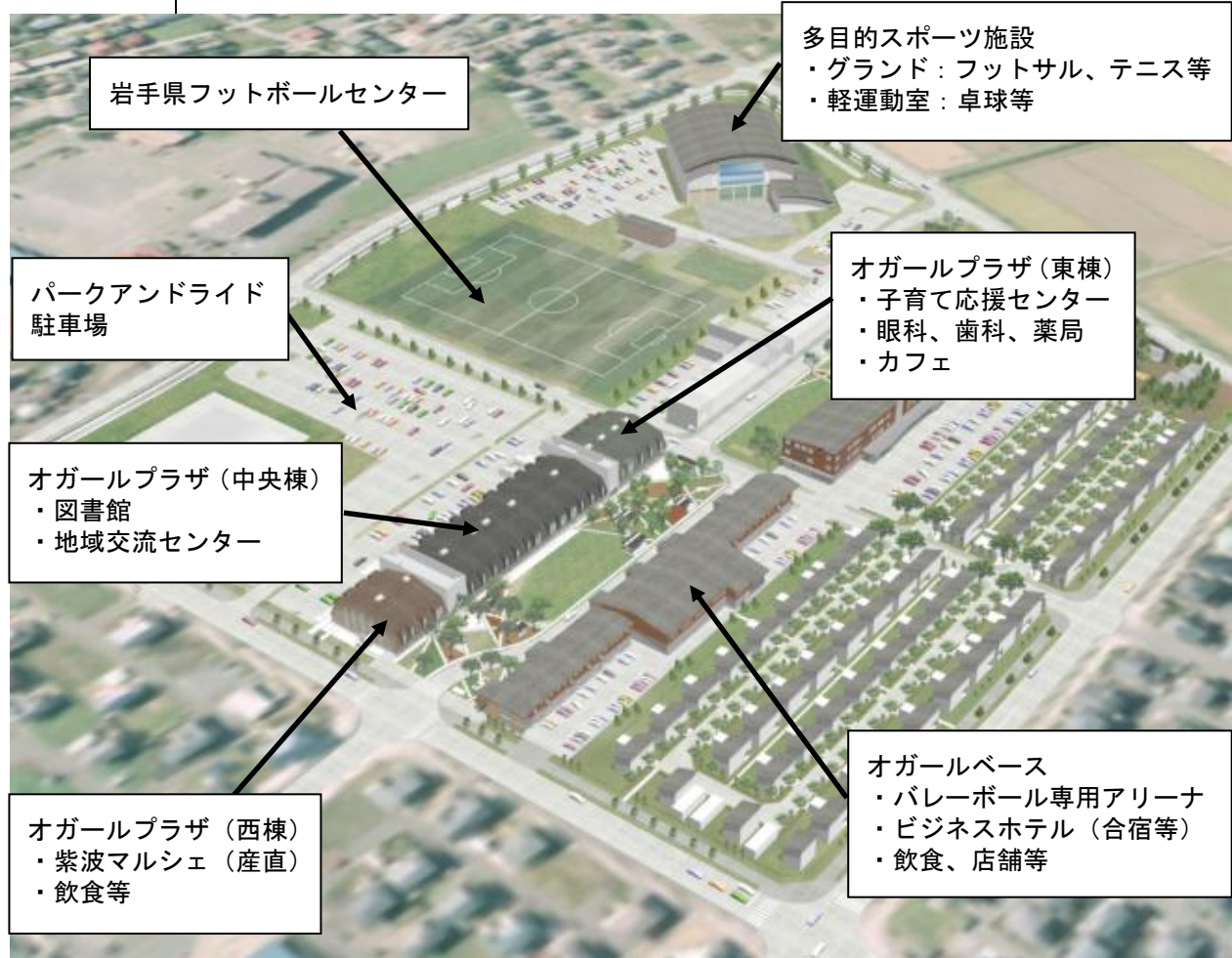
②市民等のイメージ

【第1回意見交換会で出された意見】	【洲崎陣出の杜の会】
●ウェルネスを象徴する核施設 ・看護大学はある医療法人が開校を検討していたのだが、それが難しくなったのであれば、福祉介護施設等とすれば良い。 ・大学に拘らず、専門学校でも良いのではないか。そうしないと若い人が集まらない。 ・医療施設を考えても良い。	(なし)
●健康生活を支える公園・広場・スポーツ施設 ・総合体育館を整備してほしい。 ・スポーツ施設を考えても良い。 ・スポーツ施設はユニークな施設にしてほしい。最近若い人の間でダンスが活発になっているので、ダンスの練習ができるように、鏡張りの施設にしてはどうか。ただし、施設は有料にしてはどうか。 ・屋内プールは市内に少ないので、あると良い。泳ぐだけでなく、高齢者が水中を歩くことも健康につながる。 ・グラウンドを整備して、市にお金が入るようにする。	公共用地の集約による「洲崎陣出の杜」の創出を ・公共系の用地はできるだけ集約し、そこを「洲崎陣出の杜」と称し、公共施設や「泣き塔」を中心とした大型公園、スポーツ施設などの配置を求めます。 (提言のその4)
●多世代が交流できる施設 ・子どもと高齢者がふれあえる場所があると良い。 ・公園等子どもの遊べる場所がほしい。	(なし)
●その他、ウェルネス・健康をテーマとしたまちづくりの具体的なイメージ (特筆すべき事項なし)	

③例示

●食と健康・スポーツのまちづくり

名称等	概 要
オガールプロジェクト	《人が集まるまちづくり、地元の食文化の育成》 ・地元の農畜産物を用いた食と健康・スポーツの経済的・教育的連携を目指す。
岩手県紫波町	●岩手県フットボールセンター ・日本サッカー協会公認グラウンド。各種公式試合や幅広い世代のトレーニングセンターとして地域スポーツの拠点となる。 ・サッカーを通じた交流人口の増加や経済発展を目指す。 ●オガールプラザ ・10の民間テナント（飲食・物販・医療・教育系）と、紫波町が運営する情報交流館（図書館・地域交流センター）で構成される官民複合施設。 ・子育て応援センターを併設。 ●紫波マルシェ（産直施設） ・“オール紫波”を合い言葉に、紫波の農畜産物や加工品を販売。 ●オガールベース ・バレーボール専用アリーナ。紫波スポーツアカデミーの拠点。 ・ビジネスホテル（合宿等）、飲食・店舗、事務所等。



<出典>
・オガール紫波（株）ホームページ

●ウェルネス、健康をテーマとしたまちづくり

名称等	概要
スマート ウェルネス シティ たかいし	《「歩きたくない、歩いてしまう」まちづくり》 ●ウォーキングロードの整備 ・高齢者や歩行者優先の視点で市内の道路整備や現道の改修を行い、市民誰もが利用できるウォーキングロードとして整備する。 ・ウォーキングロードの中間点にある広場を、セントラルパークとして整備する。 ●音の出る歩道の検討 ・ストックホルムにおいて、地下鉄の駅の入口階段に音源を埋め込んでピアノ鍵盤化したところ、導入前と比べて階段を利用する人の割合が増えたという事例がある。 ●ウォーキングステーションの設置（健康づくりコミュニティの場合） ・市民の歩行距離など運動状況が確認できるウォーキングステーション（情報確認端末機）を主要施設に設置する。
大阪府 高石市	「スマートウェルネスシティたかいし全体構想」  <出典> ・「スマートウェルネスシティたかいし」基本計画（H24.1）

●ウェルネスを象徴する核施設

名称等	概 要
Fujisawa サスティナブル スマートタウン (SST)	《ウェルネススクエア》 ・特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、各種クリニック、保育所、学習塾などが一体となった複合施設。
神奈川県 藤沢市	
	【 Fujisawa SST全体図 】
	< 出典 > ・ Fujisawa SST ホームページ

3. 参考データ

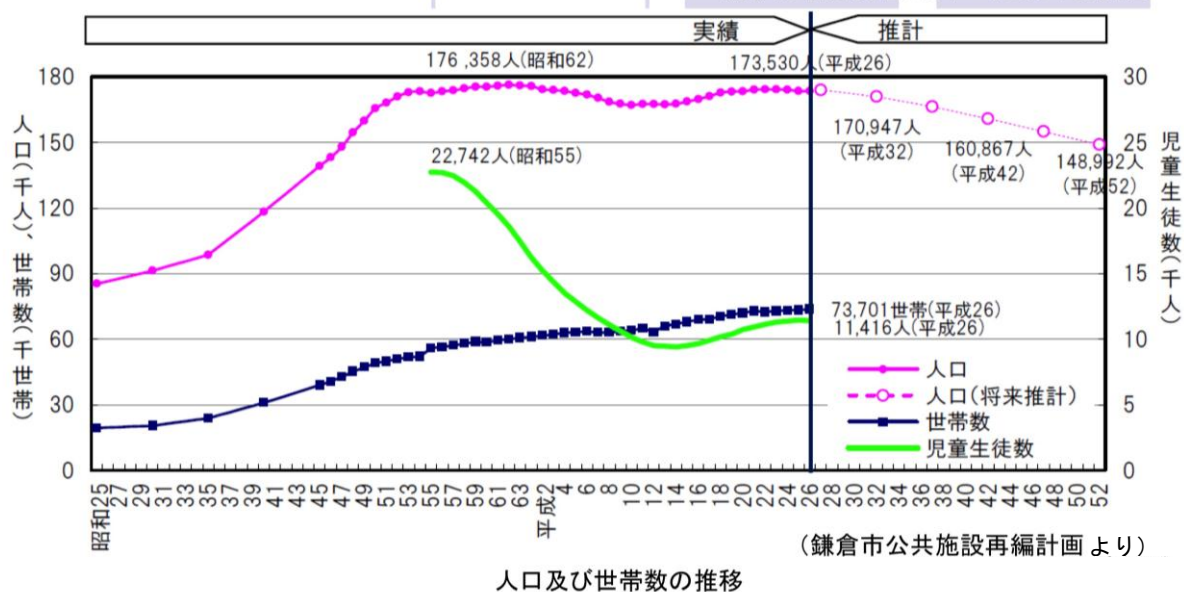
①少子化・高齢社会

少子化・高齢社会

平成22年(2010年)→平成52年(2040年)の人口減少は
174314人→148992人 **マイナス14%程度**

(全国: -16%程度、藤沢市: +3%、茅ヶ崎市: -2%、逗子市: -18%)

※茅ヶ崎市は、2010年→2035年の数値



少子化・高齢社会

平成22年(2010年)→平成52年(2040年)の年代別
人口割合の推移

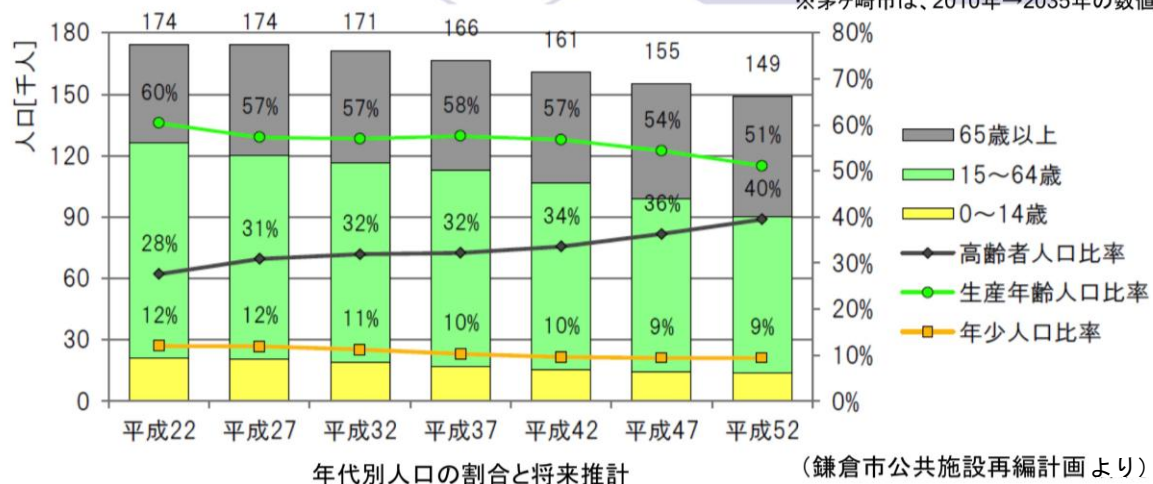
高齢者人口の割合は **約28% → 約40%**

(全国: 23%→36%、藤沢市: 20%→33%、茅ヶ崎市: 22%→32%、逗子市: 28%→44%)

生産年齢人口の割合は **約60% → 約51%**

(全国: 64%→54%、藤沢市: 66%→57%、茅ヶ崎市: 64%→57%、逗子市: 60%→48%)

※茅ヶ崎市は、2010年→2035年の数値



②高齢者の健康増進の必要性

●健康寿命

神奈川県健康寿命（平成 22 年）

神奈川県（H22）

・男性…70.90 歳

・女性…74.36 歳

	男性			女性		
	健康寿命	平均寿命	差	健康寿命	平均寿命	差
神奈川県	70.90 歳	80.36 歳	9.46 歳	74.36 歳	86.74 歳	12.38 歳
全国	70.42 歳	79.64 歳	9.22 歳	73.62 歳	86.39 歳	12.77 歳

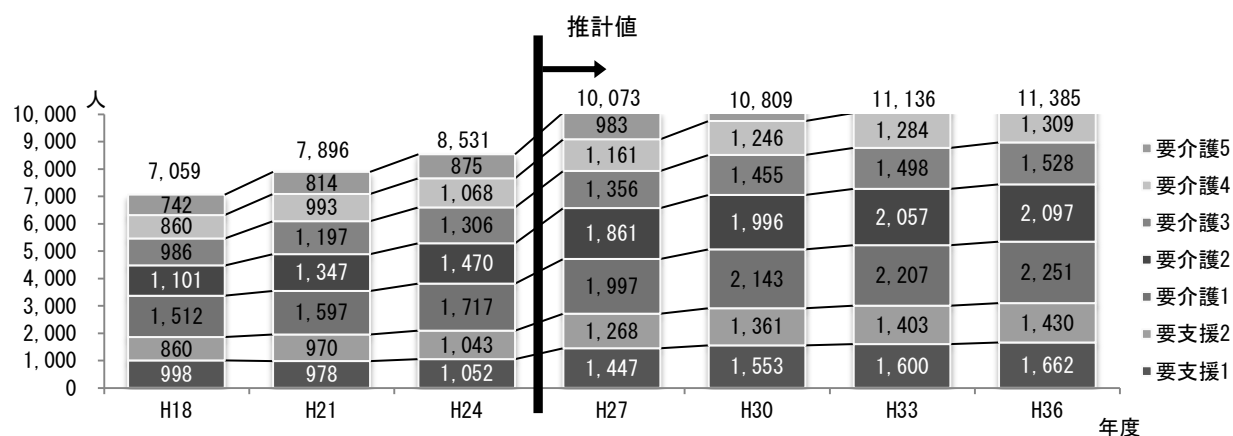
（「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」（H22）、厚生労働省より）

●介護が必要な高齢者の将来予測

平成 24（2012）年度→平成 36（2024）年度

・要支援・要介護は、8,531 人→11,385 人 約 33%の増加

・全面的な介護が必要とされる要介護 3 以上は、3,249 人→4,934 人 約 52%の増加



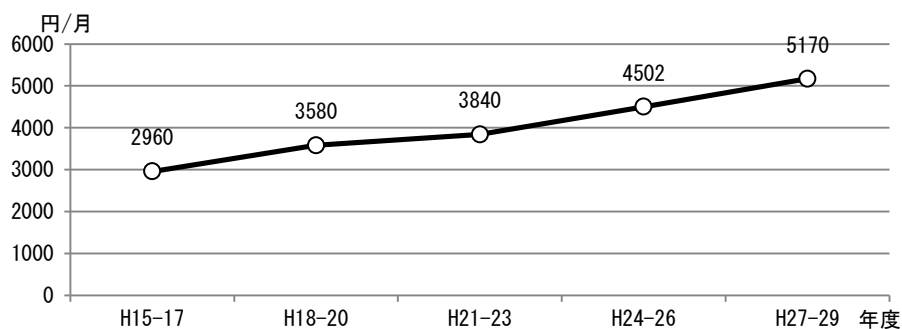
要支援・要介護認定者数の推移

（鎌倉市保健福祉計画より）

●介護保険料の推移

平成 24-26 年度→平成 27-29 年度の 65 歳以上の介護保険料（基準額）は

4,502 円/月→5,170 円/月 約 15%の増加



介護保険料（基準額）の推移

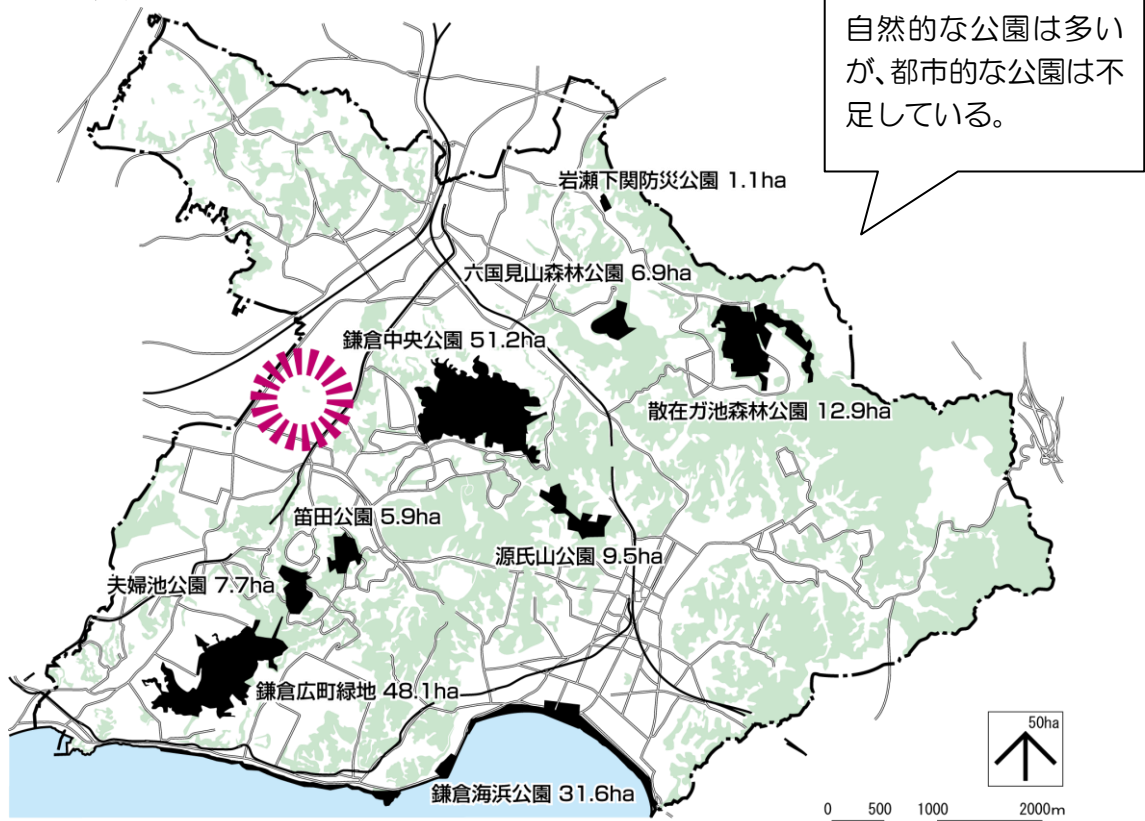
（鎌倉市保健福祉計画より）

③スポーツ施設、公園の状況

●主なスポーツ施設の現況と再配置計画



●主な公園の現況

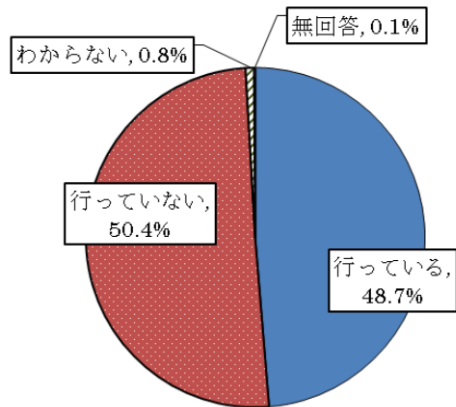


④市民意識

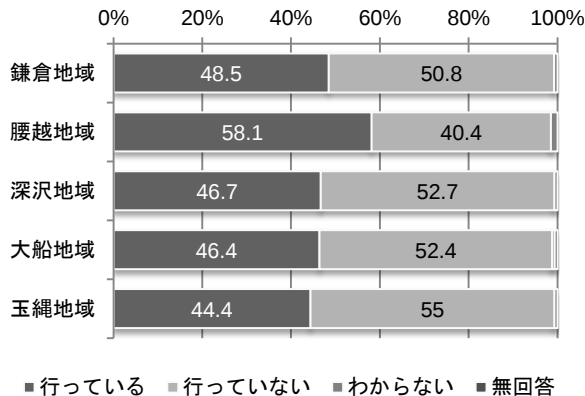
●運動習慣

- ・市民の半数以上が、運動習慣がない。
- ・腰越地域の運動習慣が最も高く、玉縄地域が最も低い。
- ・65-69歳の運動習慣が最も高く、30代が最も低い。

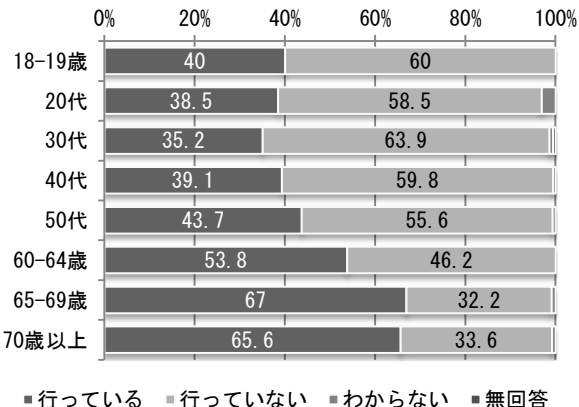
「あなたは、日常生活の中で、運動を行っていますか
(1回30分以上で週1回以上行っている運動)」



■地域別



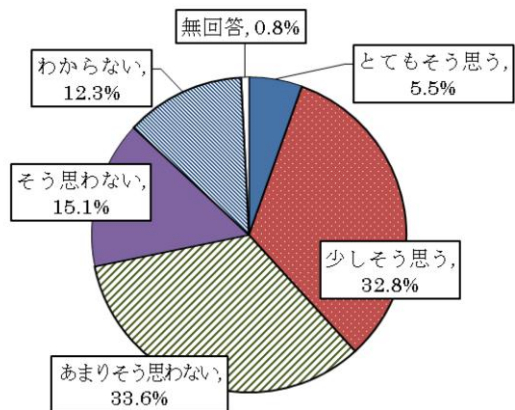
■年齢別



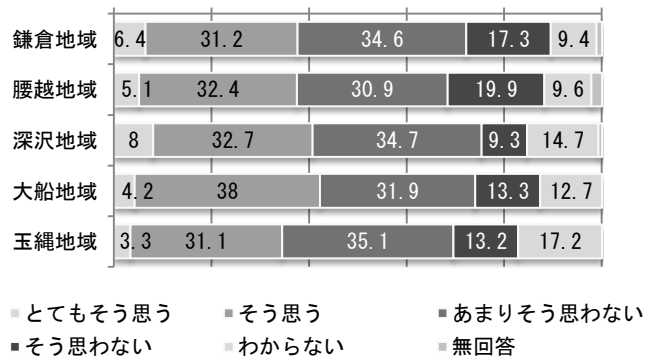
●スポーツを楽しむ環境

- ・スポーツを楽しむ環境が整っていると思う市民と、思わない市民が、五分五分。
- ・大船地域の満足度が最も高く、玉縄地域が最も低い。
- ・70歳以上の満足度が最も高く、18-19歳が最も低い。

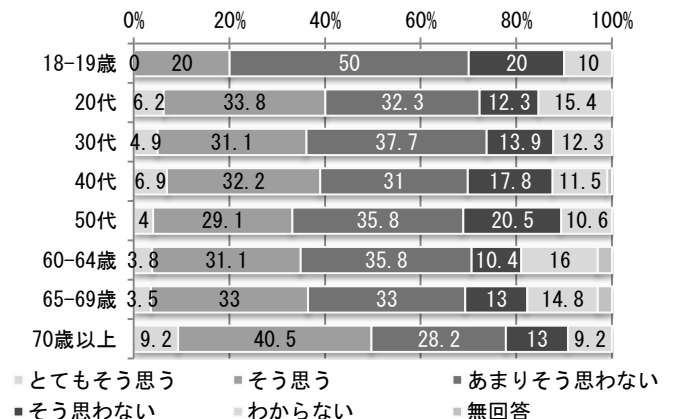
「鎌倉市は、市民が自主的に、気軽に、自らの健康状態に応じてスポーツやレクリエーションを楽しむことができる環境が整っているまちだと思いますか」



■地域別



■年齢別



(平成25年度第3次鎌倉市総合計画第2期基本計画に関する市民意識調査より)